はしがき

青森・岩手県境不法投棄事案 ――― この事案は、西の豊島に東の県境産廃とも言われ、非常に衝撃的なものでしたが、昨年２月にようやく原状回復宣言（本県側）が行われるに至りました。事案発覚から20年以上にわたる関係者の皆様の粉骨砕身の尽力に改めて深い敬意を表したいと思います。

われわれ人類の歴史は、社会的費用に対する認識の変化の歴史でもあります。狭い視野で経済合理性を追求しても、決して全体最適な結果は導かれず、むしろ社会全体で余計なコストが掛かることになります。戦後の高度経済成長の中で清掃法が廃棄物処理法となり、産業廃棄物の処理責任の所在が見直された結果、外部不経済が顕在化する事態が発生しました。

県境不法投棄事案に対しては、現象（原状回復）と本質（制度的対応）の両面からのアプローチが行われています。本誌に収録されているオーラルヒストリーでは、そのダイナミズムが関係者の皆様の証言で浮き彫りになっており、時空を超えて追体験することが可能となりました。

この外部不経済の課題認識とそれへの対応は、今後の環境政策を考える上でも示唆に富んでいます。例えば、同じ資源循環の分野では、家庭ごみ処理有料化が外部性を内部化する有効な手段の一つですが、県内の取組は道半ばとなっています。脱炭素の分野でも、そもそも地球温暖化対策というアジェンダ自体、欧米型の近代工業社会がもたらした外部不経済に起因するものです。

県境不法投棄事案には、松尾鉱山の鉱毒事件と並んで、このように本質的な教訓が含まれています。本誌のような文献をはじめとする史料がこれを将来世代へと伝え、世の中のあらゆる負の外部性を内部化することで、近未来の持続可能な経済社会を実現していく原動力の一つになることを心から願っています。

令和６年３月

岩手県環境生活部長　福　田　　直